

令和6年度 青森県 英語教育改善プラン

目標

児童・生徒に求められる資質・能力が継続的に着実に育まれるよう、「小・中学校教科充実支援事業」を実施し、外国語教育担当教員に対する直接的な支援や外国語教育における小中連携強化につながる取組を推進する。

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①児童の英語を用いた言語活動の割合(授業中50%以上の時間、言語活動)が増加。
(R4:90.4%⇒R5:92.1%)

②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定、公表、達成状況を把握している学校が増加。
設定(R4:76.3%⇒R5:86.6%)
公表(R4:20.6%⇒R5:41.3%)
把握(R4:61.5%⇒R5:71.7%)

未だ改善が必要な点

①外国語教育における小中連携について、引き続き改善の余地がある。
(R4:59.5%⇒R5:68.8%)

②学習到達目標の設定、公表、達成状況把握(パフォーマンステスト)について、引き続き改善の余地がある。
パフォ(R4:89.0%⇒R5:89.8%)

2. 要因分析

①県内全小学校を対象に、小学校外国語活動・外国語科担当教員等研究協議会を開催し、「言語活動を通して」指導することへの理解が徐々に深まってきていることで、増加したと考えられる。

②Aomori English Model(単元計画シート)を県内全域に周知し、その活用を促進したことで、増加したと考えられる。

①外国語教育における小中連携の取組(指導方法や指導内容の共有)に地域(学区)間の差が見られる。

②学習到達目標の設定、公表、達成状況把握の意義や、「言語活動を通して」指導することについて(特に、その具体)の理解がまだ不十分であることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

児童に求められる資質・能力が継続的に着実に育まれるよう、外国語教育担当教員に対する直接的な支援や外国語教育における小中連携強化につながる以下の取組を推進する。

①②AOMORI小・中学校外国語教育ワークショップの実施
第1回：全県(オンライン開催)

- ・本県の外国語教育における現状
- ・AOMORI ENGLISH PACKAGE(R5作成)の活用
- ・小中連携に係る講義・ワークショップ

第2回：教育事務所ごと(集合開催) 1中学校区を指定
・小中連携、AOMORI ENGLISH PACKAGEの活用を意識した公開授業(中)・実践発表(小)

- ・小・中混合グループでの協議・ワークショップ

①①②小学校外国語教育充実支援訪問の実施

- ・各学校の要請に応じて随時訪問し、授業参観や協議、授業づくりについての意見交流等を行う。

①②文部科学省「教師の英語力・指導力向上のための実践的なオンライン研修」への参加促進

- ・教師自身が英語を用いてコミュニケーションを図るモデルとなり、英語での言語活動が充実するよう、参加を促進する。

②英検ESGの実施促進

- ・学習到達目標の達成状況把握の改善(パフォーマンステストの充実)につなげるため、実施を促進する。

令和6年度 青森県 英語教育改善プラン

目標

児童・生徒に求められる資質・能力が継続的に着実に育まれるよう、「小・中学校教科充実支援事業」を実施し、外国語教育担当教員に対する直接的な支援や外国語教育における小中連携強化につながる取組を推進する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 41.4% ⇒ R6 : 50%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表、達成状況を把握している学校が増加。
公表(R4:33.8%⇒R5:52.8%)
把握(R4:68.2%⇒R5:70.8%)

①外国語教育における小中連携について、改善の余地がある。
(R4:59.5%⇒R5:68.8%)

②R5全国学テで、全技能の平均正答率が全国を下回っている。
聞くこと (県:56.4% 全国:58.4%)
読むこと (県:47.5% 全国:51.2%)
書くこと (県:19.8% 全国:23.4%)

③生徒の英語を用いた言語活動の割合(授業中50%以上の時間、言語活動)が低下。
(R4:62.7%⇒R5:58.7%)

④英語担当教員の授業における英語使用状況の割合が低下。
(R4:55.4%⇒R5:44.1%)

⑤CEFR A1以上の英語力を有する生徒の割合が低下。
(R4:41.6%⇒R5:41.4%)

⑥CEFR B2以上の英語力を有する教員の割合が変化なし。
(R4:28.9%⇒R5:28.9%)

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①県内全中学校を対象に、AOMORI中英ネットワークショップを開催し、「目標と指導と評価の一体化」についての理解徐々に深まってきていること、Aomori English Model(単元計画シート)を県内全域に周知し、その活用を促進したことで、増加したと考えられる。

①外国語教育における小中連携の取組(指導方法や指導内容の共有)に地域(学区)間の差が見られる。

②③④⑤学習到達目標の設定、公表、達成状況把握の意義や、「言語活動を通して」指導することについて(特に、その具体)の理解がまだ不十分であることが要因と考えられる。

⑥日常的に自身の英語力に磨きをかける機会や意識を創出するための働きかけが不十分であることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

生徒に求められる資質・能力が継続的に着実に育まれるよう、外国語教育担当教員に対する直接的な支援や外国語教育における小中連携強化につながる以下の取組を推進する。

①①②③④⑤AOMORI小・中学校外国語教育ワークショップの実施

第1回：全県(オンライン開催)

- ・本県の外国語教育における現状
- ・AOMORI ENGLISH PACKAGE(R5作成)の活用
- ・小中連携に係る講義・ワークショップ

第2回：教育事務所ごと(集合開催) 1中学校区を指定

- ・小中連携、AOMORI ENGLISH PACKAGEの活用を意識した公開授業(中)・実践発表(小)
- ・小・中混合グループでの協議・ワークショップ

①②③④⑤中学校外国語教育充実支援訪問の実施

- ・各学校の要請に応じて随時訪問し、授業参観や協議、授業づくりについての意見交流等を行う。

②③④⑤⑥文部科学省「教師の英語力・指導力向上のための実践的なオンライン研修」への参加促進

- ・教師自身が英語を用いてコミュニケーションを図るモデルとなり、英語での言語活動が充実するよう、参加を促進する。

②英検IBAの実施促進

- ・学習到達目標の達成状況把握の改善(パフォーマンステストの充実)につなげるため、実施を促進する。

令和6年度 青森県 英語教育改善プラン

目標

本県生徒の主体的・対話的で深い学びの実現が図られるよう、高等学校教員の英語力・指導力向上に取り組むとともに、学習到達目標の設定・公表・達成状況の把握状況の改善を図る。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5 : A2以上 46.2%、B1以上 13.6% ⇒R6 : A2以上 55%、B1以上 15%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①・・・ CEFRB2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合は、目標値に近い水準を維持している。
R4 87.0 %→R5 91.1%
- ②・・・スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合
R4 40.3 %→R5 41.6%

- ①・・・英語担当教員の授業における英語使用状況
R4 34.2% →R5 19.5%
- ②・・・ 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合
R4 50.2%→R5 46.2%

2. 要因分析

- ①・・・これまでの指導力向上に係る研修会と民間試験を利用した自らの英語力を高める機会を有効的に活用したことが反映されている。
 - ②・・・指導方法や評価問題作成に係るノウハウの共有が学校ごとに進んできている。
-
- ①・・・学習指導要領に基づいて、学習到達目標を設定し、授業づくりを行うことに対する理解が不十分である。
 - ②・・・日常的に自身の英語に磨きをかける機会や意識を創出する必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①、②・・・英語担当教師の指導力・英語力の向上を継続して実施し、以下の施策に取り組む。
 - ア スピーキングやライティングなどのパフォーマンス評価、指導・評価の一体化について大学と連携し、協議会を年3回開催する。
 - イ 高等学校外国語教育充実支援訪問を実施し、上記ワークショップの内容が反映された授業づくりが確実に行われるよう通年で指導・助言する。
- ①・・・小、中及び高等学校における外国語活動・外国語科の授業改善及び学校間連携が進められるよう、小中高外国語教育充実検討委員会等を開催する。
- ②・・・文部科学省「教師の英語力・指導力向上のための実践的なオンライン研修」への参加を促進する。
R6 3名 R7 10名

青森県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		55	46.2	55		55		60		60	
	②CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		10	13.6	15		20		20		30	
	③授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		50	30.7	50		50		50		50	
	④スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		50	41.6	50		50		50		50	
	⑤「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	50	28.8	50		50		50		50	
		達成状況の把握（％）	50	46.2	50		50		50		50	
	⑥CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		100	91.1	100		100		100		100	
	⑦英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		50	19.5	50		50		60		70	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	41.4	50		55		60		65	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		65	58.7	65		70		75		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	83.1	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	99.3	100		100		100		100	
		公表（％）	40	52.8	60		70		80		90	
		達成状況の把握（％）	70	70.8	80		90		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		40	28.9	40		40		40		40	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		60	44.1	60		65		70		75	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	86.6	100		100		100		100	
		公表（％）	50	41.3	50		60		70		80	
		達成状況の把握（％）	70	71.7	80		90		100		100	